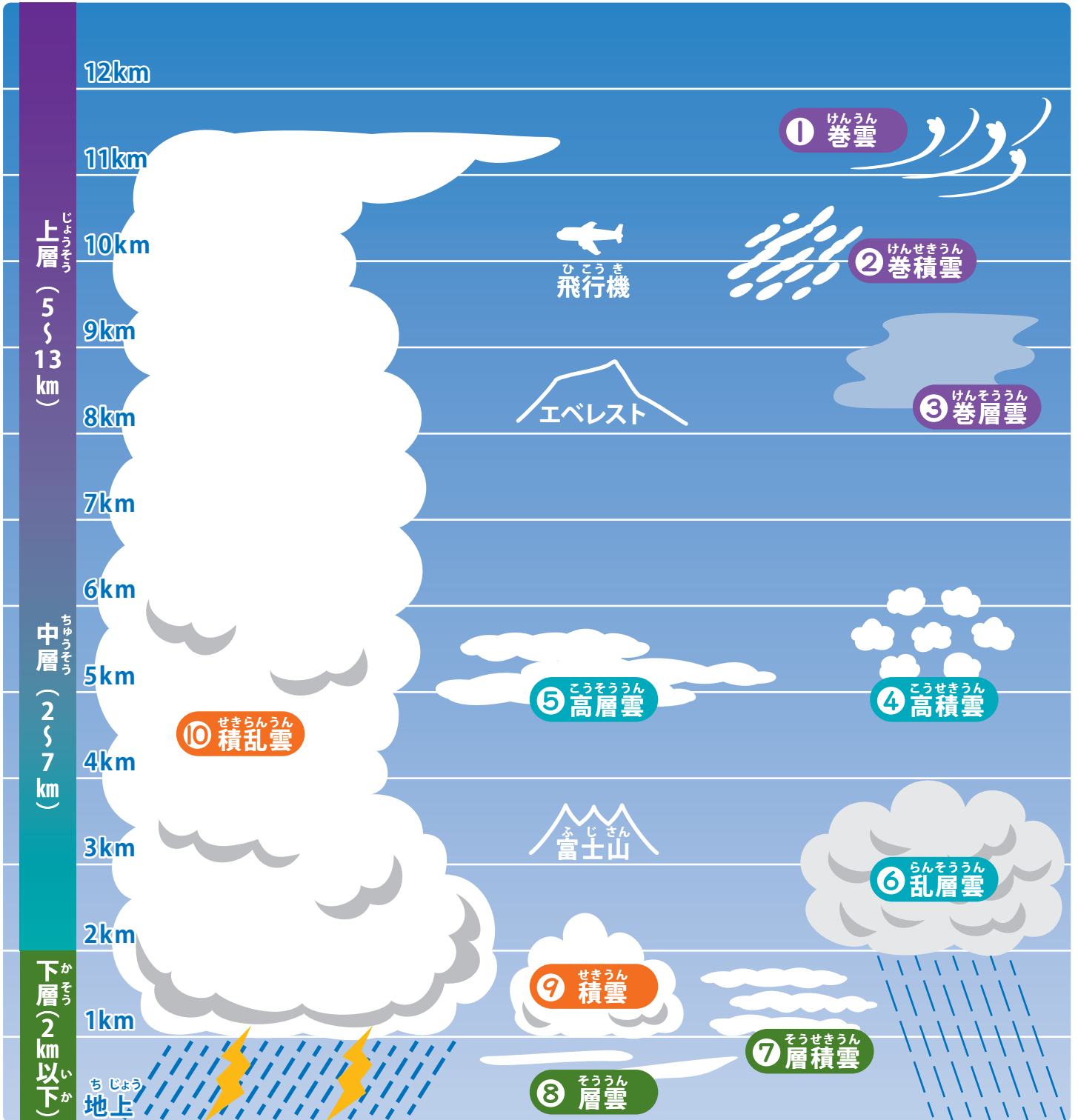


雲と天気

雲は、形や高度によって色々な種類に分けられていて、その様子から天気の変化を予想することができます。それぞれの雲と天気の関係を、見てみましょう。

雲の種類



雲は大きく分けて、上の図のように10種類に分類されます。また、これらは高度によって次のように分けられます。

- 上層雲** (じょうそうん) 高度5~13kmの高いところに行ける雲。
  - ① 巻雲 (すじ雲) (けんうん) 細くて白い線が集まった雲。秋と春に多い。すぐに雨は降らない。
  - ② 巻積雲 (うろこ雲) (けんせきうん) 小さなかたまりが集まった、うろこのような形。巻層雲にか変わるときは天気かづれる。
  - ③ 巻層雲 (うす雲) (けんそうん) 白いベールのような雲。太陽の光を通す。天気がわるまえ悪くなる前ぶれとされる。

**中層雲** 高度2~7kmのところにできる雲。



④ **高積雲 (ひつじ雲)**  
 巻積雲よりかたまりが大きく、下部が灰色である。厚くなると雨になりやすい。



⑤ **高層雲 (おぼろ雲)**  
 太陽光をさえぎり、空全体をおおうことが多い。小雨を降らせたり、乱層雲に変わりやすい。



⑥ **乱層雲 (雨雲・雪雲)**  
 空全体を厚くおおう暗い灰色の雲。雨や雪を降らせる代表的な雲である。

**下層雲** 高度2km以下の低いところにできる雲。



⑦ **層積雲 (うね雲)**  
 底に丸みがある大きな雲。雨にはなりにくい。形がどんどん変わるときは、風が強くなる。



⑧ **層雲 (きり雲)**  
 白や灰色のきり状の雲。雲の中で最も低いところにある。霧雨になることがある。

**対流雲** 大気が不安定な時にできやすい、上に向かって発達する雲。



⑨ **積雲 (わた雲)**  
 モコモコした、かたまりの雲。形が変わらなければ晴れが続くが、発達すると積乱雲になる。



⑩ **積乱雲 (かみなり雲・入道雲)**  
 夏に多い、積雲から発達した巨大な雲で、高さは10km以上にもなる。雲の中でかみなりが発生する。激しい雨や、ひょうを降らせ、ときに災害をもたらすこともある。

てっぺんが平たく広がり「かなとこ」のような形になることから「かなとこ雲」とも呼ばれるよ。

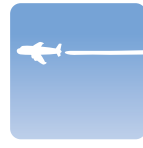
他にもある！雨を知らせる雲



● **かさ雲**  
 山にかさの様な雲がかかる。と雨になる。



● **日がさ/月がさ**  
 太陽や月の周りに輪が見えるとき、天気はすぐ晴れる。



● **飛行機雲**  
 すぐ消えるなら晴れが続き、消えにくいなら数日後に雨。

## 雲のでき方と雨が降るしくみ



雲は、空気中の水蒸気が上空で冷やされて、小さな水滴や氷の粒に変わったものが、たくさん集まってできています。雨や雪を降らせる雲の中では、水滴や氷の粒がぶつかり合ったり成長したりして、しだいに大きくなり、雨粒や雪の結晶になります。急に大きくなる積乱雲の中では、この粒どうしのぶつかり合いが静電気を起こし、かみなりが発生するよ。

やがて、重くなりすぎた雨粒や雪の結晶は、空に浮かんでいることができなくなり、地上に落ちてきます。

